

- プレコール持続性鼻炎カプセル L
- プレコール持続性鼻炎カプセル LX
- トレーネ鼻炎薬

### 【使用上の注意】

#### 使用上の注意

#### してはいけないこと

(守らないと現在の症状が悪化したり、副作用・事故が起こりやすくなります)

1. 次の人は服用しないで下さい。
  - (1) 本剤又は本剤の成分によりアレルギー症状を起こしたことがある人
  - (2) 次の症状のある人  
前立腺肥大による排尿困難
- (3) 次の診断を受けた人  
高血圧、心臓病、甲状腺機能障害、糖尿病

2. 本剤を服用している間は、次のいずれの医薬品も使用しないで下さい。  
他の鼻炎用内服薬、抗ヒスタミン剤を含有する内服薬等(かぜ薬、鎮咳去痰薬、乗物酔い薬、アレルギー用薬等)、胃腸鎮痛鎮痙薬
3. 服用後、乗物又は機械類の運転操作をしないで下さい。(眠気や目のかすみ、異常なまぶしさ等の症状があらわれることがあります)
4. 長期連用しないで下さい。



#### ■ 相談すること

1. 次の人は服用前に医師、薬剤師又は登録販売者に相談して下さい。
  - (1) 医師の治療を受けている人
  - (2) 妊婦又は妊娠していると思われる人

### 【解 説】

1.
  - (1) 共通事項解説〔1〕参照
  - (2) 塩酸プソイドエフェドリンの交感神経刺激作用による、前立腺および膀胱頸部(膀胱の出口)の平滑筋緊張の増大により、膀胱の出口が狭くなるため、さらに尿がでにくくなるおそれがあります。前立腺肥大がある場合には、尿閉があらわれるおそれがあるので服用しないで下さい。
  - (3) 記載されている疾患の診断を受けた人は、本剤に配合されている成分により、病状が悪化するおそれがありますので、服用前に相談が必要です。
    - 高血圧、心臓病、甲状腺機能障害  
塩酸プソイドエフェドリンの交感神経刺激作用により、血圧を上昇させ、心拍数を増加させるため、高血圧、心臓病、甲状腺機能亢進症(動悸、発汗、手のふるえ、いらいら等)の症状を悪化させるおそれがあります。
    - 糖尿病  
塩酸プソイドエフェドリンの交感神経刺激作用により、肝臓のグリコーゲン分解が増加し、インスリン分泌を減少させることがあるため血糖値が上昇し、悪化するおそれがあります。
2. 共通事項解説〔2〕参照
3. 抗ヒスタミン剤(クロルフェニラミンマレイン酸塩)は、眠気等を生じる可能性があるため、重大な事故につながるおそれがあります。  
また、ベラドンナ総アルカロイドには、目のかすみ、異常なまぶしさを起こす作用があることから注意が必要です。
4. 共通事項解説〔3〕参照
1.
  - (1) 共通事項解説〔4〕参照
  - (2) 共通事項解説〔5〕参照

- プレコール持続性鼻炎カプセル L
- プレコール持続性鼻炎カプセル L X
- トレーネ鼻炎薬

### 【使用上の注意】

- (3) 授乳中の人
- (4) 高齢者
- (5) 薬などによりアレルギー症状を起こしたことがある人
- (6) かぜ薬、鎮咳去痰薬、鼻炎用内服薬等により、不眠、めまい、脱力感、ふるえ、動悸を起こしたことがある人
- (7) 次の症状のある人  
高熱、排尿困難、むくみ
- (8) 次の診断を受けた人  
緑内障、腎臓病

### 【解 説】

- (3) 塩酸プソイドエフェドリンは母乳に移行することが知られています。  
乳児への具体的な有害反応は不明で、安全性は確立されていないため、服用前に専門家に相談して服薬指導等の指示を受ける必要があります。
- (4) 共通事項解説〔6〕参照
- (5) 共通事項解説〔7〕参照
- (6) 塩酸プソイドエフェドリンの交感神経刺激作用により、症状が悪化するおそれがあるので注意が必要です。
- (7) 記載されている症状のある人は、下記のような理由で服用前に相談が必要です。
- 高熱  
高熱がある場合、ウイルス性の感染症やその他の重篤な疾病も考えられます。
  - 排尿困難  
抗ヒスタミン剤(クロルフェニラミンマレイン酸塩)、ベラドンナ総アルカロイドの抗コリン作用により、膀胱の緊張が減少することがあるため、症状が悪化し、さらに尿が出にくくなるおそれがあります。また、前立腺肥大がある場合には、尿閉があらわれるおそれがあります。  
また前立腺肥大による排尿困難がある場合は塩酸プソイドエフェドリンの交感神経刺激作用により、症状が更に悪化するおそれがあるので服用しないで下さい。  
(「してはいけないこと 1(2)」参照)
  - むくみ  
グリチルリチン酸、グリチルリチン酸二カリウムを大量に摂取すると、ナトリウム貯留、カリウム排泄促進が起こり、浮腫、高血圧、四肢麻痺、低カリウム血症等の症状があらわれるおそれがあります。これらの症状は、偽アルドステロン症として報告されています。いずれも服用中止により緩解していますが、高齢者、高血圧、心臓病、腎臓病の人は注意が必要です。
- (8) 記載されている疾患の診断を受けた人は、本剤に配合されている成分により、病状が悪化するおそれがありますので、服用前に相談が必要です。
- 緑内障  
抗ヒスタミン剤(クロルフェニラミンマレイン酸塩)とベラドンナ総アルカロイドの抗コリン作用および、塩酸プソイドエフェドリンの交感神経刺激作用により、房水水路が狭くなり、眼圧が上昇し、緑内障を悪化させるおそれがあります。

→次のページに続く

- プレコール持続性鼻炎カプセル L
- プレコール持続性鼻炎カプセル LX
- トレーネ鼻炎薬

## 【使用上の注意】

- (9) モノアミン酸化酵素阻害剤(セレギリン塩酸塩等)で治療を受けている人  
(セレギリン塩酸塩は、パーキンソン病の治療に用いられる)

2. 服用後、次の症状があらわれた場合は副作用の可能性があるので、直ちに服用を中止し、この文書を持って医師、薬剤師又は登録販売者に相談して下さい。

関係部位	症 状
皮 膚	発疹・発赤、かゆみ
消化器	吐き気・嘔吐、食欲不振
精神神経系	めまい、不眠、神経過敏、頭痛、けいれん
泌尿器	排尿困難
その他	顔のほてり、異常なまぶしさ

まれに下記の重篤な症状が起こることがあります。その場合は直ちに医師の診療を受けて下さい。

症状の名称	症 状
ショック (アナフィラキシー)	服用後すぐに、皮膚のかゆみ、じんましん、声のかすれ、くしゃみ、のどのかゆみ、息苦しさ、動悸、意識の混濁等があらわれる。
急性汎発性発疹性膿疱症	高熱、皮膚の広範囲の発疹・発赤、赤くなった皮膚上に小さなブツブツ(小膿疱)が出る、全身がだるい、食欲がない等が持続したり、急激に悪化する。
偽アルドステロン症、ミオパチー	手足のだるさ、しびれ、つっぱり感やこわばりに加えて、脱力感、筋肉痛があらわれ、徐々に強くなる。
再生不良性貧血	青あざ、鼻血、歯ぐきの出血、発熱、皮膚や粘膜が青白くみえる、疲労感、動悸、息切れ、気分が悪くなりくらっとする、血尿等があらわれる。

## 【解 説】

→1(8).の続き

- 腎臓病  
グリチルリチン酸、グリチルリチン酸二カリウムを大量に摂取すると、ナトリウム貯留、カリウム排泄促進が起こり、尿量減少、浮腫、高血圧、四肢麻痺、低カリウム血症等の症状があらわれ、腎臓病を悪化させるおそれがあります。  
塩酸プソイドエフェドリンは、主として腎臓を経て尿中に排泄されるので、排泄が遅延して作用が強くあらわれるおそれがあり、腎臓病の人は注意が必要です。

- (9) 本剤に配合されている塩酸プソイドエフェドリンとモノアミン酸化酵素阻害剤との併用により、血圧が上昇するおそれがあります。

2. 例示したような副作用症状が起こる可能性があります。これらの症状があらわれた場合には、症状の増悪や重篤な副作用への移行を未然に防ぐため、直ちに服用を中止し、服用している薬剤の成分等がわかる添付文書を持参の上、専門家に相談する必要があります。

下記のような重篤な症状があらわれたら、直ちに服用を中止し、医師の診療を受ける必要があります。

- ショック(アナフィラキシー)  
クロルフェニラミンマレイン酸塩・塩酸プソイドエフェドリン・ベラドンナ総アルカロイド・カフェインを含有する製剤により起こることがあります。  
重篤な症状の解説〔1〕参照
- 急性汎発性発疹性膿疱症  
塩酸プソイドエフェドリンにより起こることがあります。  
重篤な症状の解説〔4〕参照
- 偽アルドステロン症、ミオパチー  
グリチルリチン酸、グリチルリチン酸二カリウムの大量服用により起こることがあります。  
重篤な症状の解説〔9〕参照
- 再生不良性貧血  
クロルフェニラミンマレイン酸塩により起こることがあります。  
重篤な症状の解説〔11〕参照

→次のページに続く

- プレコール持続性鼻炎カプセル L
- プレコール持続性鼻炎カプセル LX
- トレーネ鼻炎薬

### 【使用上の注意】

無顆粒球症	突然の高熱、さむけ、のどの痛み等があらわれる。
-------	-------------------------

3. 服用後、次の症状があらわれることがありますので、このような症状の持続又は増強が見られた場合には、服用を中止し、この文書を持って医師、薬剤師又は登録販売者に相談して下さい。

口のかわき、眠気、便秘、目のかすみ

4. 5～6日間服用しても症状がよくなる場合は服用を中止し、この文書を持って医師、薬剤師又は登録販売者に相談して下さい。

### 【用法・用量に関連する注意】

1. 用法・用量を厳守して下さい。
2. 7歳以上の小児に服用させる場合には、保護者の指導監督のもとに服用させて下さい。
3. 錠剤を1 / 2に割るときは、図のように割線の反対方向に折って下さい。

▶ トレーネ鼻炎薬



4. 錠剤/カプセルの取り出し方  
右図のように錠剤/カプセルの  
入っているPTPシートの凸部を  
指先で強く押し、裏面のアルミ  
箔を破り、取り出して服用して下さい。  
(誤ってそのまま飲み込んだりすると食道粘膜に突き刺さる等思わぬ事故につながります)



### 【解 説】

→2.の続き

- 無顆粒球症  
クロルフェニラミンマレイン酸塩により起こることがあります。  
重篤な症状の解説〔12〕参照
- 3. 一過性の軽い副作用としてあらわれることがあります。直ちに服用を中止する必要はありませんが、症状が持続したり増強する場合は服用を中止して専門家に相談する必要があります。
- 口のかわき  
抗ヒスタミン剤(クロルフェニラミンマレイン酸塩)、ベラドンナ総アルカロイドの抗コリン作用により、唾液の分泌が抑制されてあらわれることがあります。
- 眠気  
抗ヒスタミン剤(クロルフェニラミンマレイン酸塩)により、あらわれることがあります。
- 便秘  
ベラドンナ総アルカロイドの副交感神経遮断作用により、腸管の蠕動運動が抑制されてあらわれることがあります。
- 目のかすみ  
ベラドンナ総アルカロイドの副交感神経遮断作用により、散瞳が誘引されてあらわれることがあります。
- 4. 5～6日間服用しても症状の改善がみられない場合は、他の疾患や合併症も考えられるので、服用を中止し、専門家に相談する必要があります。

1. 共通事項解説〔8〕参照
2. 共通事項解説〔9〕参照
3. 錠剤を正確に1 / 2に分割するための注意です。
4. 共通事項解説〔10〕参照

## 【使用上の注意】

### 【保管及び取扱い上の注意】

1. 直射日光の当たらない湿気の少ない涼しい所に保管して下さい。
2. 小児の手の届かない所に保管して下さい。
3. 他の容器に入れ替えないで下さい。(誤用の原因になったり品質が変わります)
4. 1錠を分割した残りを服用する場合は、袋の口を折り返して保管し、2日以内に服用して下さい。  
▶トレーネ鼻炎薬
5. 表示の使用期限を過ぎた製品は使用しないで下さい。

## 【解 説】

1. 共通事項解説〔11〕参照
2. 共通事項解説〔12〕参照
3. 共通事項解説〔13〕参照
4. 本剤を開封状態で放置しておく、吸湿して品質に影響を及ぼすので、1錠を分割して服用した場合は、吸湿しないように袋の口を折り返して保管し、2日以内に服用して下さい。
5. 共通事項解説〔17〕参照